

西園寺公望揮毫の

扁額・石碑を

訪ねて



西園寺公望と立命館

Kinmochi Saionji and Ritsumeikan



本冊子は、「立命館」を始め学園内に所蔵・保存されているもののほか、全国各地に点在している西園寺公望が揮毫したといわれる扁額・石碑を調査しとりまとめたものです。

扁額や石碑の題額（篆額）により、幕末・明治・大正・昭和の時代を歩んだ西園寺公望の足跡や、立命館との関わりについて探訪してみたいかがででしょうか。

「立命館」の創始者・西園寺公望は1849（嘉永2）年、名門公家の「徳大寺家」に生まれました。そして3歳の時、「西園寺家」の養子となり西園寺家を継ぎます。少年期には漢学を伊藤轡斎に、書を近衛忠熙に学んでいます。幕末維新の時代、西園寺公望は19歳で新政府の「参与」になります。そして戊辰戦争が勃発すると山陰道鎮撫総督となり京都から亀岡を経て山陰に向かいます。このとき西園寺公望の陣営に亀岡馬路の郷士が参加しました。その中で中心的な役割を果たしたのが立命館の創立者となった中川小十郎の父・禄左衛門、養父・武平太などでした。このことが後に西園寺公望と中川小十郎を結びつけるきっかけとなりました。

戊辰戦争が終わり新政府の基盤が形成されていくなか、1869（明治2）年、西園寺公望は京都の私邸（現・京都御苑内にその旧趾を示す標柱があります）に私塾「立命館」を開き、著名な学者を教師に迎え、100名を超える塾生が学びました。しかしこの私塾を快く思わなかった新政府の京都留守官は差留命令を出し、塾はわずか1年弱で廃止を余儀なくされました。西園寺公望は再興の意思をもっていましたが、その直後10年にわたりフランス留学をしたことなどから再興は果たせませんでした。

後年西園寺公望が文部大臣になると、中川小十郎が秘書官を務め、京都帝国大学創設にあたって書記官（初代事務局長）となりました。さらに西園寺公望が首相となっ

た際にも秘書を務め、政界を退いて元老となつてからも私的秘書を務めました。

中川小十郎は1900（明治33）年に「京都法政学校」を創立します。5年後の1905（明治38）年に中川が「立命館」の名の継承を願い出ると、これを喜んだ西園寺公望は自筆の扁額「立命館」を贈ってこれを許諾しています。

1913（大正2）年、中川は財団法人「立命館」を設立し、「私立立命館大学」と「私立立命館中学」へと校名を改称しました。この時も西園寺は「立命館」の由来を記した「立命館由来記」を贈っています。その扁額は現在も伝わっています。

また、西園寺公望の「自由主義と国際主義」の精神も継承され、「自由にして清新」な学府、つまり自由にして進取の気風に富んだ学園の創造を目指したのです。この精神は立命館学園の建学の精神として受け継がれています。

今日の立命館は、差留された私塾「立命館」をいつの日か再興したいとの西園寺公望の志を継承しているといえるでしょう。



西園寺公望

立命館 Ritsumeikan

1

りつめいかん

立命館

所蔵 立命館

揮毫 明治2年秋9月23日 公望21歳

扁額「立命館」は、西園寺公望が私塾立命館を創設した際に揮毫したものを西園寺家の親戚である橋本家から寄贈された。立命館の名称は私塾の賓師であった橋本蓉塘の命名と

いわれ、「立命」は『孟子』『盡心章』から。現在の立命館の名称は、大正2年に継承したもの。



2

まなびてしかるのちにたらざるをしる

學然後知不足

所蔵 立命館

揮毫 大正4年乙卯初春 公望67歳

神戸須磨の湯浅竹之助の別荘で揮毫。西園寺は滞在中に鳩居堂に軸の太い筆を送るよう注文している。1988年の国際関係学部開設

に際し、書を拡大した銅版扁額を西園寺記念館に設置した。出典は『禮記』卷18の「学記」より。



3

ばいこんたっし
培根達支

所蔵 立命館

揮毫 明治45年壬子夏日 公望64歳

出典は朱子編纂の『小学』「題辞」の一節。学を建て師を立て、以って其の根に培い、以って其の支（枝）を達す。2006年、立命館小学校開校に際し、小学生が学び育っていくうえでふさわしい言葉であるということから校舎に石碑を設置した。



4

みづをたずねやまをのぞむ
尋水望山

所蔵 立命館

揮毫 明治42年己酉晩春 公望61歳

立命館 史資料センター所蔵の木製扁額。2013年2月に個人から寄贈された。香石刀とある。「尋水望山」は他にもあり、1点は明治43年揮毫の書を立命館が所蔵（個人寄贈）。

もう1点は昭和15年および16年に西園寺公を偲ぶ展覧会で出品された個人蔵のもの。



1 2
3 4

京都 Kyoto

5 さいおんじ 西園寺

所在地 西園寺：京都市上京区寺町通鞍馬口下ル

揮毫 明治25年9月8日 公望44歳

寺名の扁額「西園寺」が本堂に掲げられている。西園寺は鎌倉時代藤原公経が衣笠山麓北山第に建立した仏堂に始まる。同地は室町時代に足利氏の所有に帰したため移転。室町



頭を経て天正年間に現在地に。西園寺には西園寺家の墓地があり、妙音弁財天も祀られている。

6 せいせいせんこ 清聲千古

所在地 亀岡市馬路町御蔵

建立 大正11年 公望74歳

「清聲千古」は、西園寺公望が慶応4年に山陰道鎮撫使として馬路に着陣した際に陣営に参じたことを顕彰した「中川人見両姓戌辰唱義碑」の篆額。竹越與三郎撰文、根岸好太郎書で、中川小十郎が建立した。碑には実父禄左衛門、養父武平太、叔父謙二郎の名も刻まれている。



7 ゆうたいあん 有待庵

所在地 (元) 大久保利通旧邸：京都市上京区

揮毫 大正4年 公望67歳

有待庵は上京区にあった大久保利通旧邸の茶室。大久保は慶応2年春から明治元年6月までこの旧邸を使い、岩倉具視らと維新の密談をした。

扁額の揮毫は、大正4年の大正天皇即位の御大典の際に入洛した西園寺公望に大久保利通子息の利武氏が揮毫を依頼した。([『有待庵を繞る維新史談』])

扁額は現在個人所蔵。



8

せんおくはくこ

泉屋博古

所在地 泉屋博古館：京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町

揮毫 昭和初期

公望の実弟住友吉左衛門春翠は、大正初期に鹿ヶ谷に別邸を建て、泉屋博古館をその一角に設けた。開館は1960年。住友家が蒐集した美術品を収蔵し、中国古代の青銅器・鏡鑑、明清の絵画や仏教美術・工芸品を展示する。



9

くるまぎきじんじゃひ

車折神社碑

所在地 車折神社：京都市右京区嵯峨朝日町

建立 明治42年4月 公望61歳

西園寺公望篆額、舟橋遂賢撰、富岡百鍊書とある。建立者は車折神社宮司高田静衛。祭神清原頼業を顕彰する。富岡百鍊（鉄斎）は明治20年代に車折神社の宮司を務めた。私塾立命館の賓師でもあった。碑文は内藤湖南の代作。鉄斎の長男謙三は湖南と親交があった。なお公望の位階が「従一位」となっているが明治42年には「正二位」。参照：伊東宗裕「京の石碑ものがたり」及び「京都いしぶみデータベース」



京都 Kyoto

10 しらくもじんじゃ せいにしてじょ 白雲神社、清而舒

所在地 白雲神社：京都市上京区京都御苑内

揮毫 明治38年 公望57歳

白雲神社は京都御苑内の元西園寺家の鎮守社。社号扁額「白雲神社」が社殿に、「清而舒」が社務所に架かる。「白雲神社」の社号は、明治11年から。西園寺公望が昭和15年に薨去した際、官司小栗栖元熙氏が、明治38年の白雲神社750年祭にあたり揮毫していただいた、と京都日出新聞に語っている。



11 はたもくあんび 秦黙庵碑

所在地 黒谷墓地：京都市左京区黒谷

揮毫 揮毫年：不明

碑は金戒光明寺西雲院の東側。西園寺公望所題とある。秦黙庵、本名秦虎太郎（旧姓澁谷）は明治時代の自由党・政友会系のジャーナリスト。備後出身で、岐阜・長岡・金沢など各地で新聞記者をしたのち明治30年に京都新聞の記者となり、翌々年に雑誌『近畿評論』を創めた。明治37年京都で病没、享年40歳。



12 せいしゅうかん 静脩館

所在地 京都大学附属図書館：京都市左京区吉田本町

揮毫 明治33年5月 公望52歳

明治32年末に京都帝国大学附属図書館が竣工、文部大臣書記官の中川小十郎が西園寺公に館名を委嘱。西園寺は、『小学』にある諸葛孔明の「諸葛武侯戒子書曰、君子之行、静以修身、儉以養徳、非澹泊無以明志、非寧



静無以致遠」から「静脩館」と命名した。文字通り「静に修めること」（京都大学附属図書館報「静脩」通巻1号）。京都大学附属図書館所蔵。

13 ぎおんかく ぎおんかくひ 祇園閣、祇園閣碑

所在地 大雲院：京都市東山区祇園町

揮毫 昭和3年 公望80歳

大雲院の地は大倉土木創業者大倉喜八郎が建てた別荘「真葛荘」（昭和3年竣工）の地。喜八郎は京都の新名所とすべく祇園祭の鉦を模し高さ36mの「祇園閣」を建てた。喜八郎は祇園閣の完成を見ずに他界。息喜七郎が翌年隣に祇園閣碑を建立。

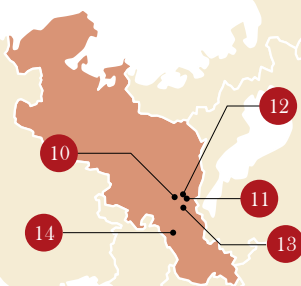


14 やまだおうしょうとくひ 山田翁頌徳碑

所在地 華臺寺：京都府久御山町

建立 明治45年1月 公望64歳

碑は当時の御牧村村長の山田與四五朗の遺徳を顕彰するため菩提寺である華臺寺に建てられた。撰文は衆議院議員奥繁三郎。奥は山田村長のもと、御牧小学校の教員であった。のち政治家となり西園寺のもとで立憲政友会の幹事長の職を務め、衆議院議長にも就いた。



近畿 (大阪・兵庫・奈良・三重) Kinki

15 せいびかん 済美館

所在地 大阪府立清水谷高等学校：大阪市天王寺区清水谷町

揮毫 明治40年初夏 公望59歳

済美館は清水谷高等学校の同窓会館。清水谷高校は明治34年に創立されたが、明治40年に5周年記念事業として済美館が建てられ

た。当時の大村校長が日本女子大学の成瀬仁蔵を通じて西園寺公望に揮毫を依頼した。「済美」は教育勅語の「世世美厥済」に由来。



16 じゅんせつちゅうしのはか 殉節忠士之墓

所在地 山口護国神社：兵庫県朝来市山口

揮毫 慶応4年2月 公望20歳

神社の正面に「殉節忠士之墓」碑がある。その脇に「殉節忠士之墓誌銘」があり、生野の変で敗れた南八郎らを村民が祀るために鎮撫使西園寺公望に揮毫を謹請したと記される。撰文は山陰道鎮撫総督参謀折田主税年秀。文字の周囲が削られているのは博徒のゲン担ぎとか。



17 こしょうだい 孤松臺

所在地 王地山公園：兵庫県篠山市河原町

揮毫 明治29年1月 公望48歳

西園寺公望が山陰道鎮撫の際に篠山に滞陣したことから、篠山町長が西園寺公望に依頼したものと言われる。王地山は高台で眺めが良く、松の名木が1本生えていたことから孤松台と呼ばれた。



18 がくでんのひ 學田之碑

所在地 進修小学校：兵庫県丹波市春日町

建立 明治29年9月 公望48歳

撰文は内閣修史局編集官を務めた漢学者・歴史家の重野安繹。重野が来校したことから依頼したと言われる。進修小学校は前身が明治6年設立、明治20年に進修小学校と改名。どの子も学校に行けるようにと100人を超す村人が田畑や金を寄付して授業料を無料にした記念碑。



近畿 (大阪・兵庫・奈良・三重) Kinki

19 かくりん 鶴林

所在地 鶴林寺：兵庫県加古川市加古川町北在家

揮毫 揮毫年：不明

鶴林寺は聖徳太子創立と伝わる播磨の古刹。扁額「鶴林 公望」とあるが、所蔵の経緯は不詳。寺には寛政11(1799)年以降の

西園寺関係文書が20点ほど所蔵されており、西園寺家と鶴林寺の関係が窺える。(写真の扁額は複製)



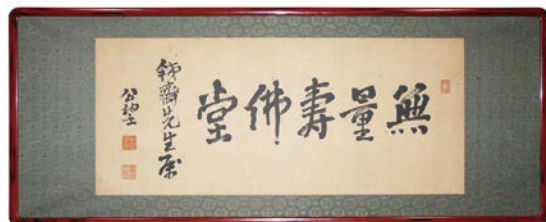
20 むりょうじゅぶつどう 無量壽佛堂

所在地 鉄斎美術館：兵庫県宝塚市米谷

揮毫 大正11年 公望74歳

大正11年、富岡鉄斎は京都室町一条の自邸に書庫「魁星閣」を建て、新しい画室を設けた。鉄斎は画室を「無量壽佛堂」と名付け、西園寺公望に揮毫してもらった。鉄斎は明

治2年に私塾立命館の賓師を務めたが、大正6年八坂倶楽部の古書画即売会で50年ぶりに再会すると、以降親交を重ねた。



写真提供 清荒神清澄寺 鉄斎美術館

21 あまがすぶんえもんきねんのひ 天春文右衛門紀念之碑

所在地 鍋坂公園（鍋坂集落センター）：三重県いなべ市大安町鍋坂

建立 大正5年1月 公望68歳

あまがす

天春文右衛門は、元禄14年生、明和7年没、江戸時代中期の里正・郷代官で、鍋坂新田など北勢地域の開拓に努めた。

碑は、その7世孫である天春文衛が建立した。天春文衛は明治時代に衆議院議員・貴族院議員を務め、立憲政友会に属した。

題額を西園寺が揮毫、撰文を三重県知事馬淵鋭太郎（のち京都府知事・京都市長）、書は前衆議院議員矢土勝之であった。

碑は天春文衛の所有であった地に建てられている。



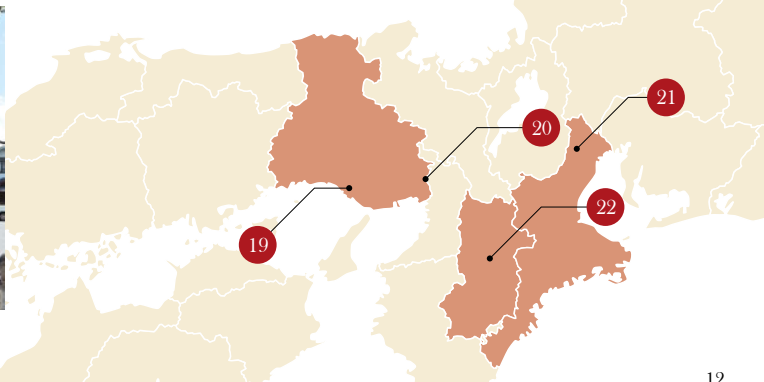
22 ほうけいさくらいくんひ 芳溪櫻井君碑

所在地 五條市役所：奈良県五條市

建立 明治45年5月 公望64歳

碑文は明治42年3月。撰文山本憲、書は寺西易堂。桜井徳太郎、号芳溪は安政5年生まれ、明治41年没。自由民権を主張し、明治

23年第1回の国会議員となった。明治29年、南和鉄道（現JR和歌山線）の敷設に尽力し、憲政党・自由党県支部の育成に力を注いだ。



北海道・東北 (北海道・岩手・秋田・山形・福島) Hokkaido / Tohoku

23 きくていこうひ 菊亭侯碑

所在地 芽生神社：北海道深川市深川町

揮毫 明治40年10月 公望59歳

建立 明治43年11月 公望62歳

菊亭脩季（きくてい・ゆきすえ）の顕彰碑。
京都の菊亭家を継ぎ、昌平黌、慶応義塾に学ぶ。北海道に移住し開拓に力を注いだ。のちに貴族院議員。立憲政友会幹事長に就任。明治38年没。碑文は三島毅、書は日下部東作（鳴鶴）。



24 き の し た や は ち ろ う く ん の ひ 木下彌八郎君之碑

所在地 北海道札幌市中央区南10条西2丁目

建立 大正10年1月

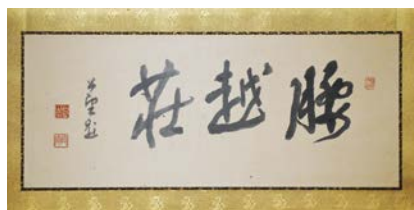
木下彌八郎はもと豊岡藩家老。明治に入り北海道の開拓に尽力し、明治38年没。撰文は原敬、書は土屋久泰。高橋光威、松本剛吉らの賛意で長男の木下成太郎が建碑。成太郎は立憲政友会所属で衆議院議員であった。



25 えんづう こしごえそう 圓通、腰越荘

所在地 大慈寺：岩手県盛岡市大慈寺町

揮毫 「圓通」は大正11年4月 公望74歳、「腰越荘」は大正4年カ



原敬は2度の西園寺内閣で内務大臣を務め、立憲政友会で西園寺の後を継いで第3代総裁に。首相を大正7年9月から務めるも大正10年11月に暗殺される。「圓通」は大慈寺再建に際し没後本堂に架けられた。「腰越荘」は鎌倉に大正4年に建てた別荘を移築。大慈寺は原の菩提寺で、境内には「原敬墓」「原浅墓」も。

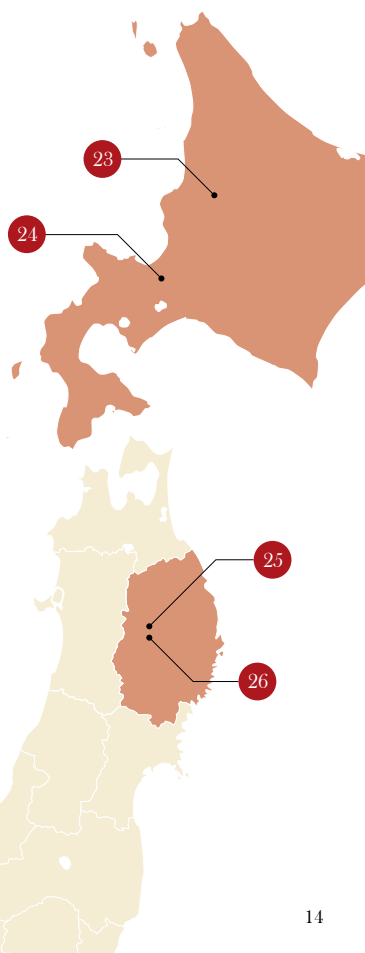
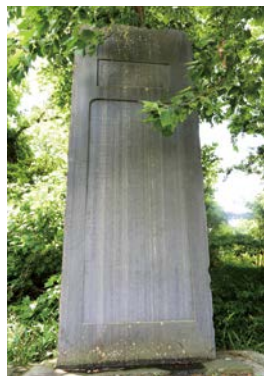
26 さとうおきなひ 佐藤翁碑

所在地 花巻城跡武徳殿南側：岩手県花巻市城内

建立 大正11年5月 公望74歳

篆額「佐藤翁碑」、正二位大勲位公爵西園寺公望揮毫。佐藤翁とは佐藤昌蔵。天保4(1833)年生、大正4(1915)年没。江戸末期盛岡藩に仕えたが、明治維新により盛岡県、青森県、岩手県で県政に務めた。後衆議院議員を明治23年以降5期務め、立憲政友会の臨時協議員をした。

碑は没後の大正11(1922)年に、息子の佐藤昌介が建立した。昌介は北海道大学の初代総長で北海道大学の父と呼ばれた。



北海道・東北 (北海道・岩手・秋田・山形・福島) Hokkaido / Tohoku

27

みやぎこうぞうくんひ

宮城浩藏君碑

(明治大学創立者・宮城浩藏先生顕彰碑)

所在地 出羽国分寺薬師堂：山形市薬師町

建 立 大正8年6月 公望71歳

宮城浩藏は山形天童藩で生まれた。フランスに留学、のち岸本辰雄、矢代操とともに明治大学の前身明治法律学校を創立。西園寺もまた明治法律学校の創立を支援し、講師も務めている。碑は東京谷中霊園の墓碑の再刻であるが、篆額は山形の碑のみ。撰文は中江篤介(兆民)。碑文原文は『明治大学百年史第一巻史料編Ⅰ』に。



28

めぐるじゅうしんおうしょうとくひ

目黒重眞翁頌徳碑

所在地 福島県相馬郡新地町大字福田字車田

建 立 大正3年10月 公望66歳

目黒重眞は文政11年生まれ、明治34年没。明治5年に宮城県・福島県で最も早い共立学校「観海堂」を設立。また河野広中らと自由民権、国会開設運動などをし、郷里の振興と教育の普及に力を尽くした。撰文は小池清一。(調査にあたっては、新地町教育委員会のご協力をいただいた。)



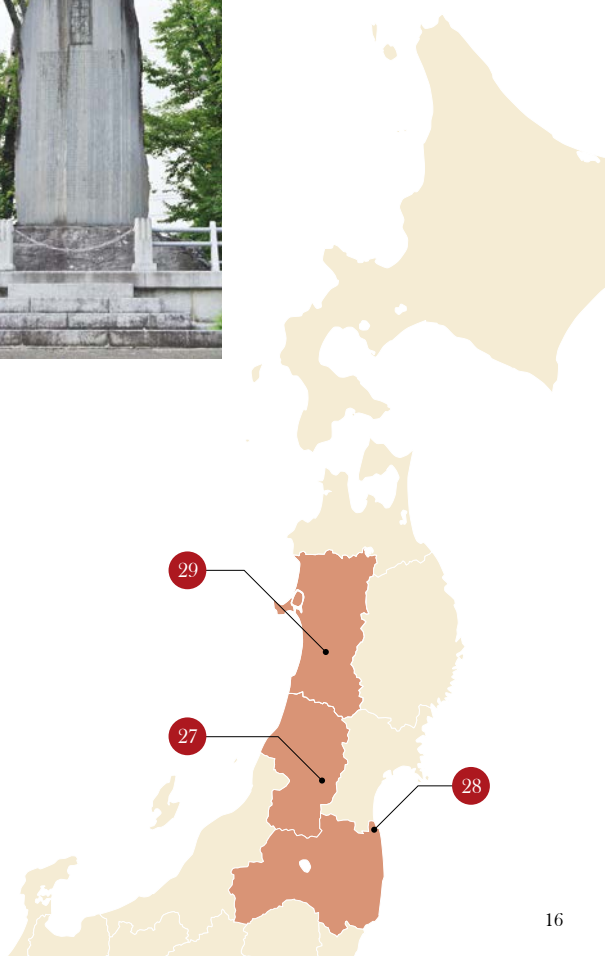
29 故衆議院議員榊田君碑銘 (榊田清兵衛翁記念碑)

所在地 大曲小学校：秋田県大仙市大曲花園町

揮毫 碑文は昭和6年、建立は昭和7年

榊田清兵衛は大曲生まれで、のち立憲政友会に所属。幹事、協議員長などを務めた。昭和4年没。碑文の撰・書は内藤虎次郎（湖南）。

湖南は秋田県出身。『内藤湖南全集』に碑文原文、『榊田清兵衛翁傳』に訳文がある。



関東 (東京・神奈川・千葉・栃木・群馬) Kanto

30 成瀬君碑 (成瀬仁蔵君墓碑)

所在地 雑司ヶ谷霊園：東京都豊島区南池袋

建立 大正10年10月 公望73歳

成瀬仁蔵は明治34年に日本女子大学校を創立。伊藤博文の紹介で成瀬の訪問を受けた西園寺は創立発起人・創立委員となり創立に

尽力。成瀬は大正8年3月に没。なお、日本女子大学校は当初大阪清水谷に開校する計画があったが、当地には清水谷高校が開校した。



31 堀部武庸加功遺跡之碑

所在地 水稲荷神社：東京都新宿区西早稲田

建立 明治43年 公望62歳

堀部武庸とは、忠臣蔵四十七士の一人、堀部安兵衛である。新潟県新発田の出身で本姓は中山安兵衛。西園寺公望は明治元年北越戊辰戦争の際に新発田に滞在した。撰文は信夫

榮、書は日下部東作（鳴鶴）。神社によれば、碑は昭和38年早稲田大学と土地を交換した際に現地に移転。



32

めいかくせんせいひめい

鳴雀先生碑銘(鳴鶴日下部先生碑銘)

所在地 豪徳寺：東京都世田谷区豪徳寺

建 立 昭和8年10月 公望85歳



鳴雀先生とは日下部東作(号鳴鶴)。明治・大正期の書家で、明治三筆と言われ、近代書道の確立者の一人。撰文は内藤虎次郎。集鳴鶴先生書とあり、鳴鶴の書を比田井天来が集書したとも。豪徳寺は井伊直弼など井伊家の菩提寺。碑文原文は『内藤湖南全集』第14巻に。

33

じょあん

除闇

所在地 護国寺：東京都文京区大塚

揮 毫 大正12年 公望75歳



親交のあった高橋箒庵が護国寺境内に奈良の三月堂、元興寺、栄山寺など名物の模造石燈籠20基を寄進した際に、箒庵の依頼に依り題額を揮毫した。名は公望とのみ記している。高橋箒庵(本名義雄)は実業家であったが、茶の湯をやり数奇者と呼ばれた。



関東 (東京・神奈川・千葉・栃木・群馬) Kanto

34 ほうこくちゅうこんひ 報國忠魂碑

所在地 町田市戦没者合同慰霊塔：東京都町田市忠生

建 立 明治39年10月 公望58歳

合同慰霊塔には町田市各地区の慰霊碑があり、この報國忠魂碑は鶴川地区のもの。碑名は侯爵西園寺公望書とあるが、裏面に日清日露戦没、太平洋戦役戦没者諸精霊とある。太平洋戦役はのちに加えられたものか。



35 なかじましひ 中島氏碑(中島次郎兵衛顕彰碑)

所在地 東京都立川市柴崎町

建 立 明治44年9月 公望63歳

中島次郎兵衛は神奈川県会議員、東京府北多摩郡会議長などを歴任。明治34年土地を提供し東京府立第二中学を誘致。明治39年没。撰文は三島毅。



36 にちろせんえききねんひ 日露戦役記念碑

所在地 深大寺：東京都調布市深大寺元町

建 立 明治39年 公望58歳

裏面には明治39年5月建設、北豊島郡志村兵事義会とあり、出征軍人124名の名が刻まれている。碑は元々北豊島郡(現在の東京都板橋区)志村の志村小学校に建立された。第二次世界大戦直後戦争に関わるものの処分が命じられ、志村村長が親戚関係の深大寺総代を通じて深大寺に相談、深大寺が引き取り、のちに境内地に建てられた(非公開)。



37

てきがいそう
萩外荘

所在地 萩外荘：東京都杉並区萩窪

揮毫 昭和12年 公望90歳

「萩外荘」は、昭和12年に近衛文麿が取得した際に、西園寺公望が命名した。近衛は昭和20年自決に至るまで住み、その間三度総理大臣を務め、萩外荘会談など政治史上重要な

な会談が行われた。現在萩外荘の建物は国指定史跡で非公開。

(扁額・写真は杉並区立郷土博物館所蔵・提供。)



38

あいぶつ
愛物

所在地 足立区立郷土博物館：東京都足立区大谷田5丁目20-1

揮毫 明治29年 公望48歳

揮毫は丙申とあり第2次伊藤内閣の明治29年、公望が文部大臣と外務大臣を兼任していた年の晩夏である。

愛物と揮毫した経緯は不明であるが、「愛

物」は盡心章句にある。

「孟子曰、君子之於物也、愛之而弗仁、於民也、仁之而弗親、親親而仁民、仁民而愛物」

(扁額・写真は足立区立郷土博物館所蔵・提供)



35

36

37

34

38

関東 (東京・神奈川・千葉・栃木・群馬) Kanto

39 しょうとくひ 頌徳碑 (嘉納治五郎墓碑)

所在地 東京都立八柱霊園：千葉県松戸市田中新田

建立 昭和14年10月 公望91歳

嘉納治五郎は講道館柔道の創始者で、東京高等師範学校長を務めるなど教育者としても著名。日本人初のIOC委員となり、1912年ストックホルムオリンピックに参加。撰文は諸橋轍次、田代其次書。講道館・東京高等師範学校・大日本体育協会・嘉納塾が建碑。



40 きむらおうのひめい 木村翁之碑銘

所在地 洞雲寺：栃木県佐野市船越町

建立 明治17年甲申8月 公望36歳

木村翁とは木村高静（源兵衛）、文化元（1804）年生まれ、明治16（1883）年没。地域の子弟のために家塾を開き、また村役人を務めた。篆額は正三位勲三等侯爵西園寺公望、撰文は森保定（鷗村）、碑文揮毫は吉田晩稼（ばんこう）。鷗村も晩稼もともに江戸末期から明治の勤皇家。



41

じゅうとうついえんひ
自由党追遠碑

所在地 総持寺：神奈川県横浜市鶴見区鶴見

建立 大正10年1月 公望73歳

立憲旧友幽明会の建立。裏面に総裁故板垣退助、会長大江天也、幹事長斎藤桂次、建碑委員長杉田定一らの名が刻まれている。杉田は自由党結成に参加し、立憲政友会の結成にも尽力、第1次西園寺内閣のとき衆議院議長を務めた。立憲政友会は自由党の流れをくんでいた。



42

せいせきひ
聖蹟碑

所在地 諏訪神社：群馬県高崎市大八木町

建立 明治41年9月 公望60歳

碑陽に 聖蹟碑 侯爵西園寺公望書、碑陰に 正二位勲一等侯爵西園寺公望題額撰及び書は、上毛布衣 松邨芳とある。

ここは旧群馬郡中川村大字大八木字諏訪腰の諏訪神社で、明治26年10月に明治天皇が

近衛師団の演習を天覧した地。明治41年9月に聖蹟碑を建立した（群馬県『明治天皇聖蹟志』）。『大日本名蹟図誌』の「諏訪神社之景」には明治35年2月には建設中であることが記されている。



42

40

39

41

中部

(静岡・長野・新潟・岐阜・愛知) Chubu

43

はくうんにたいしちょうぎんす

長吟對白雲

所在地 清見寺：静岡市清水区興津清見寺町

揮毫 昭和4年 公望81歳

西園寺公望の別荘坐漁荘の向かい清見寺大
方丈に架かる。扁額は中川小十郎が京都の職
人に篆刻させて、清見寺住職古川大航に贈っ
たもの。清見寺は風光明媚な地にあり、足利
氏・今川氏らに庇護された名利。江戸時代
には朝鮮通信使も訪れた。



44

しょうちゅうひ

彰忠碑

所在地 富士山本宮浅間大社：静岡県富士宮市宮町

建立 建立年：不明

富士宮市の浅間大社に「彰忠碑」が建っている。「明治三十七八季戦没 彰忠碑 侯爵西園寺公望書」と刻まれている。日露戦争の戦死者の慰霊碑である。この碑は、富士山の溶岩を積み上げた石積みの上に祀られている。



45

ぬまづこうえん

沼津公園

所在地 千本浜公園：静岡県沼津市千本緑町

揮毫 明治40年 公望59歳

沼津公園は明治40年12月1日開園。現在は千本浜公園という。西園寺は明治40年にしばしば沼津千本浜の仙松閣ホテルに滞在した。別荘も建てようとして用地を取得していたが、取りやめている。近くには沼津御用邸があり別荘地として栄えていた。



46 しょうとくひ 頌徳碑 (間宮喜十郎頌徳碑)

所在地 千本浜公園：静岡県沼津市千本緑町

揮毫 明治43年 公望62歳

間宮喜十郎は慶應義塾出身で教育家。明治初期の沼津の教育に貢献した。碑文は明治43年5月で、明治44年2月11日建立。撰文辻新次、書は岡田起作。千本浜公園には若山牧水などの歌碑・文学碑が建つ。



47 ひやくせいじょうしん 百世常新

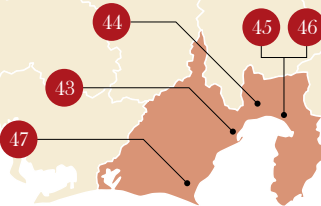
所在地 應聲教院山門前：静岡県菊川市中内田

建立 大正7年10月 公望70歳

「百世常新」(百世常へに新たなり)、松本丑太郎翁記念碑の題辞である。松本丑太郎は明治22年に静岡県小笠郡中内田村の初代村長。牧之原台地を開墾して製茶を始めた一人である。碑は大正7年にその地松本開墾、旧小笠郡河城村澤水加原とほがわに建立されたが、昭和15年に海軍飛行場建設に伴い現在地に移転

した。

題辞が西園寺公望。篆額は日本茶業中央会会頭で貴族院議員の大谷嘉兵衛。撰文は中華民國の孫白詩。撰文の書は松本家を継いだ松本君平。君平はジャーナリストで米国の文学博士の学位をもち、明治37年に衆議院議員となり立憲政友会に属した。



中部

(静岡・長野・新潟・岐阜・愛知) Chubu

48

はるうみのごとし

春如海

所在地 湯河原 清光園 (旧井上馨湯河原別邸) : 静岡県熱海市泉

揮毫 揮毫年: 不明

清光園は井上馨の湯河原別邸を南側に移築した住宅(現在旅館)。伊藤博文や徳富蘇峰などの扁額や書画なども所蔵し、建築的にも優れた邸で国の登録有形文化財に指定されている。

扁額の元の所有者は不明であるが、井上馨は明治期に外務卿、外務大臣、農商務大臣、内務大臣、大蔵大臣などを歴任し、のちに元老になった。大正4年没。井上は興津にも別邸長者荘を所有した。



49

どくらく

獨樂

所在地 静岡県静岡市清水区興津本町

揮毫 大正9年 公望72歳

興津に伊藤博文の養嗣子伊藤博邦公の別荘が建てられた。「独楽荘」と命名され、大正9年暮春(旧暦3月)西園寺公望がその書を贈った。

木製扁額「獨樂荘」はその玄関に架けられたが、後年、興津の人々により「獨樂荘」を模し、「獨樂」の扁額が作られた。(個人蔵)



50 まつざわくんひ 松澤君碑 (自由民権家松澤求策記念碑)

所在地 深志神社：長野県松本市深志

建立 大正11年 公望74歳

松澤求策は、『東洋自由新聞』の発起人の一人で編集員。西園寺公望が社長、主筆中江兆民、幹事に松田正久がいたが、政府の容れるところとならず西園寺は辞任に追い込まれ廃刊となった。松澤は内勅の事実を暴露したため捕えられ、明治20年32歳で獄死。

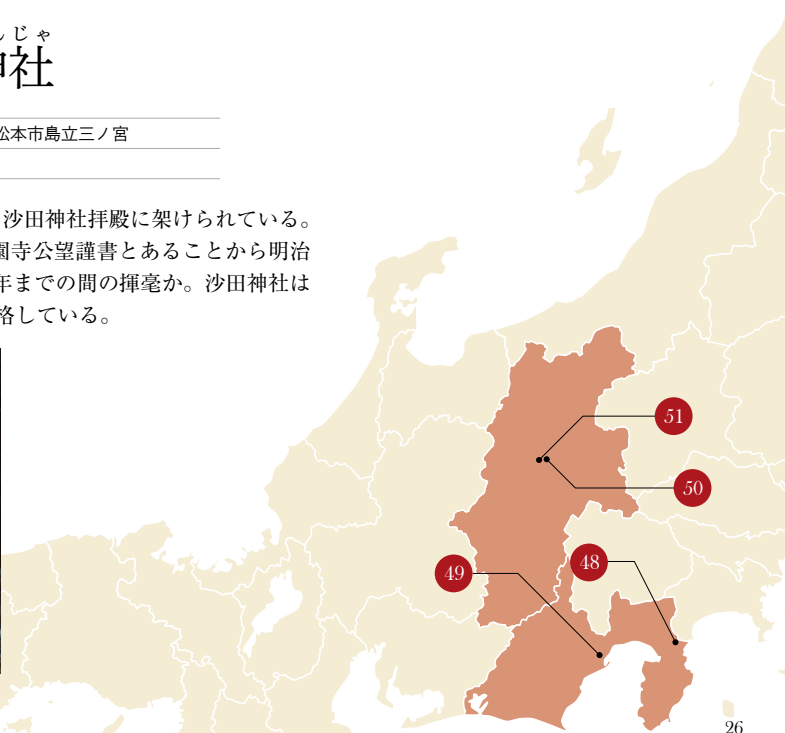


51 いさごだじんじゃ 沙田神社

所在地 沙田神社：長野県松本市島立三ノ宮

揮毫 揮毫年：不明

信濃国三宮の一つ、沙田神社拝殿に架けられている。正二位勲一等侯爵西園寺公望謹書とあることから明治31年12月以降大正7年までの間の揮毫か。沙田神社は明治34年に県社に昇格している。



中部 (静岡・長野・新潟・岐阜・愛知) Chubu

52 きんだいとうじょうせんせいのひ 琴臺東條先生之碑

所在地 神社：新潟県上越市大手町

建立 大正9年9月 公望72歳

東條琴臺は江戸生まれの漢学者であったが、高田藩主榊原家に仕え、藩士の教育にあたった。西園寺公望は北越戊辰戦争で高田に滞陣した際に琴臺と会う。公望20歳、琴臺75歳であった。小泉三申『随筆西園寺公』に出会いと篆額を揮毫した経緯がある。撰文は森林太郎(森鷗外)で、『鷗外全集』に碑文がある。



53 せいをもつてしゅくようのとく 以成肅雍之徳

所在地 扁額 唯敬寺：新潟県長岡市草生津

石碑 悠久山公園：新潟県長岡市御山町

揮毫 明治41年 公望60歳



扁額

石碑

「成ヲ以ッテ肅雍ノ徳」(成長するにしたがってつつしみ和らぐ徳が備わってくる)

扁額の揮毫は、私立長岡女学校を創立した星野嘉保子の養嗣子星野勝に明治41年秋に贈られた。嘉保子は初代の、勝は女学校を継いだ校主。扁額に長岡女学校のために書かれたことが記されている。後に嘉保子の菩提寺

であった唯敬寺に寄贈された。

悠久山の石碑は、大正12年に建立された星野嘉保子の銅像が戦時の供出で無くなり、代わりに建てられたと言われる。石碑の裏面に嘉保子の経歴が刻まれ、昭和11年9月23日の日付がありその頃建立したか。9月23日は長岡女学校の開校記念日。

54 みなそのとくをいつにせん 咸一其徳

所在地 常滑市立西浦南小学校：愛知県常滑市古場

揮毫 明治29年 公望48歳



「咸一其徳」(みなそのとくをいつにせん)。明治28年に西浦南小学校の前身のひとつ、古場校が校舎を新築した際に、古場校関係者が文部大臣に書を申請、西園寺公望が揮毫し贈った。明治23年の教育勅語の一節で、西

浦南小学校には扁額とともに経緯の文書も残されている。小学校にはもう一つの前身苅屋校に贈られた藤原篤麿の扁額「啓發智能」も残されている。

55 てんしん 天真

所在地 祐泉寺：岐阜県美濃加茂市太田本町

建立 建立年：不詳（大正後半期々）

中行道太田宿祐泉寺に建つ。祐泉寺は太田宿本陣のすぐ近く。碑は昭和58年の水害で現在地に移設したものという。裏面に、太田旧本陣廿代当主福田鎮、妙心寺管長盧山の名が刻まれている。盧山は関盧山であろう。



56 りはきんせきをうがちこうはてんかをさいす 利穿金石功濟天下

所在地 関西電力賤母発電所：岐阜県中津川市山口

揮毫 大正7年6月 公望70歳

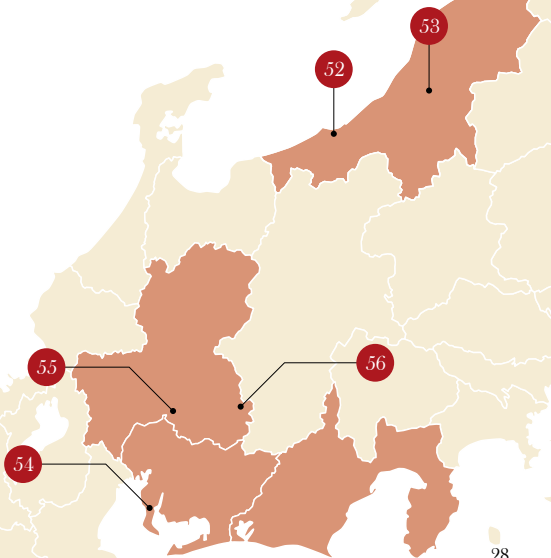
「りは きんせきをうがち こうは てんかをさいす」。(水の) 鋭さは金石を穿つほどのものであるが、その功は天下を救うものである。

福沢諭吉の娘婿福沢桃介は実業家として名を成したが、電力王とも言われ、木曾川水系に7つの発電所を造った。賤母発電所は最も

古く当時の名古屋電灯が建設、大正8年に送電を開始した。7つの発電所には各界の巨星の肖像画（レリーフ）とメッセージを掲げた。賤母発電所の水槽にその石造扁額が架かる。



〔関西電力東海支社提供〕



中国・四国・九州 (岡山・広島・鳥取・島根・愛媛・高知・鹿児島)

57

かんけいにきせんせいひ

葎溪仁木先生碑(仁木永祐顕彰碑)

所在地 岡山県津山市靱保

建 立 大正15年4月 公望78歳

仁木永祐は津山靱保の医師で、教育者・地方政治家として郷土の近代化に力を尽くした。自由民権運動にも参加し美作自由党を結成した。美作の板垣(退助)と呼ばれた。葎溪(かんけい)は仁木永祐の号。撰文は西式、書は清水文造。



58

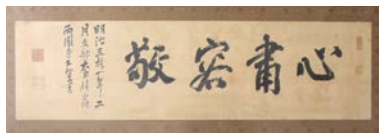
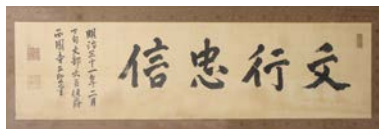
ぶんこうちゅうしん しんしゆくようけい

文行忠信、心肅容敬

所在地 福山市立御幸小学校：広島県福山市御幸町

揮 毫 明治31年 公望50歳

御幸小学校の前身である旧中津原尋常小学校と旧岩成高等小学校にそれぞれ贈られた書である。『中津原尋常小学校沿革史』の明治31年3月9日の項に「文部大臣西園寺侯執筆ノ題字受領ス」と記録されている。西園寺公望はこのとき第3次伊藤内閣の文部大臣を務めていた。「文行忠信」は論語から、「心肅容敬」は礼記から。



59

いたがきたいすけくんぞう

板垣退助君像

所在地 高知公園：高知市丸ノ内

建 立 大正12年12月 公望75歳

かつて高知公園にあった初代板垣退助銅像の題字は西園寺公望が揮毫した。板垣は自由党の創立者であるが、第2次伊藤内閣のもとで西園寺が文部・外務大臣のときに板垣が内務大臣を務めている。初代銅像は戦時に供出され、現在の像は第2代。

(写真は高知市立市民図書館中城文庫所蔵・提供。)



60 しんとくたからとなす 信徳為寶

所在地 古民家「沙々樹」佐々木彬夫様所蔵：鳥取県日野町舟場

揮毫 揮毫年：不明



従二位公望とあり、明治26年から明治31年の間の書か。所蔵の経緯不詳。西園寺公望揮毫と伝わる。舟場は日野川を挟んだ根雨宿の対岸の出雲街道沿いの集落で、根雨宿は西園寺山陰道鎮撫総督が京都への帰途、中飯をとった宿である。

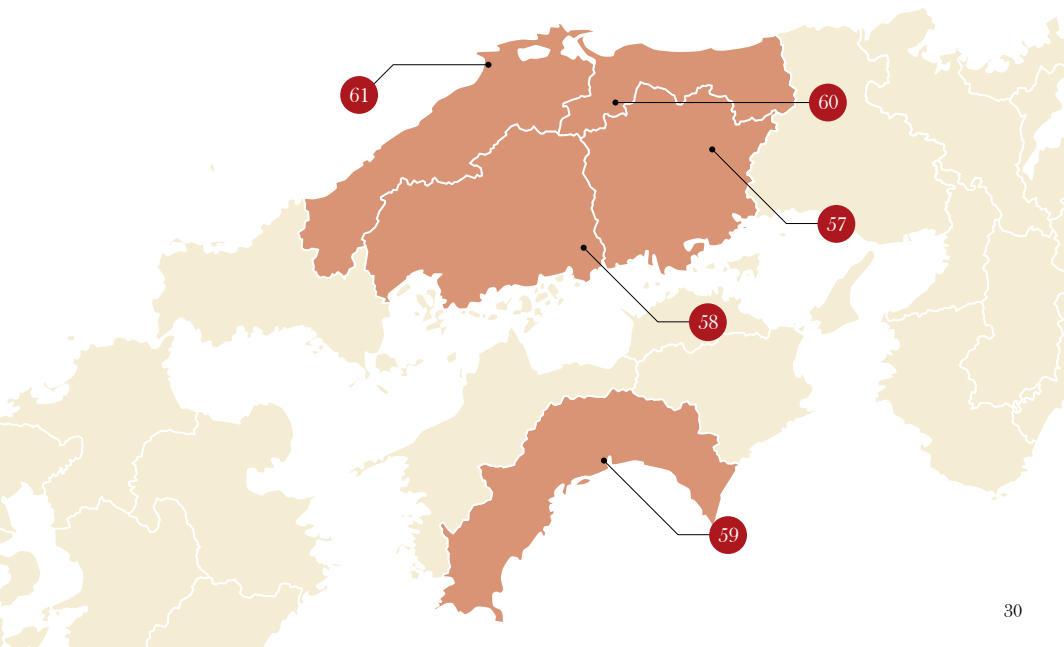
61 まつもとこどうしょうちゅうひ 松本古堂頌忠碑

所在地 出雲大社北側：島根県出雲市大社町

建立 昭和11年8月 公望88歳



出雲大社北側の奥谷の地に建つ。松本古堂は本名巖、幕末の儒学者・漢学者で、出雲国造家に仕えた。梁川星巖に学び、明治2年には私塾立命館の賓師。杵築協会の建立で設計者は彫刻家内藤伸、国造家北島貴孝撰文。谷口廻瀾の『島根儒林傳』に碑文がある。



中国・四国・九州 (岡山・広島・鳥取・島根・愛媛・高知・鹿児島)

62 しょうごいしげおかくんどろうのはか 正五位重岡薫五郎之墓

所在地 禅昌寺：愛媛県内子町内子

建 立 明治39年 公望58歳

内子出身の重岡薫五郎はフランスで法学を学んだ。第三高等学校教授、衆議院議員、法典調査会委員、外務省通商局長、文部省官房長などを歴任。立憲政友会に所属し、協議員も務めるなど西園寺と交誼があった。明治39年43歳で没。墓碑には松田正久筆の文字も。



63 けんしゃたかなわじんじゃ 縣社高縄神社

所在地 高縄神社：愛媛県松山市宮内

建 立 明治29年8月4日 公望48歳

高縄神社の鳥居の前に建つ。文部大臣兼外務大臣の時に揮毫したことが記されている。建立者は社司玉井安盛のほか正岡重教、正岡重一、正岡重政。境内には西園寺の寄附という形にして寄附者名石を残している。



64 べっしどうざんそうなんりゅうぼうしゃひ 別子銅山遭難流亡者碑

所在地 瑞応寺：愛媛県新居浜市山根町

建 立 明治34年8月 公望53歳

瑞応寺は住友家別子銅山の関係者が祀られている。碑は明治32年8月28日の台風で別子銅山関係者が500人以上亡くなった慰霊の碑。3周忌に建立し法要を営んだ。撰文は実弟住友吉左衛門。住友別子鉱業所はこの大災害で新居浜に移転した。



65 なみのいえ 浪の家

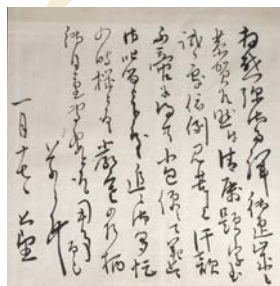
所在地 浪の家：（元）愛媛県新浜村高浜（現在扁額は正岡明様所蔵）

揮毫 大正12年1月 公望75歳

「浪の家」は加藤恒忠（号 拓川）が、愛媛県新浜村高浜に晩年に建てた新居。新浜村は現在松山市であるが、浪の家は既に無い。加藤拓川は明治・大正期の外交官・政治家。西園寺公望と親交があり、パリ講和会議にも同

行した。大正11年には松山市長に就任した。

「浪の家」は病氣静養のため建て、西園寺は「浪の家」と揮毫し扁額を贈った。写真はその扁額と書簡である。拓川はその3月に生涯を閉じた。



「浪の家」の書を送ったことを記した書簡



中国・四国・九州 (岡山・広島・鳥取・島根・愛媛・高知・鹿児島) Chugoku / Shikoku / Kyushu

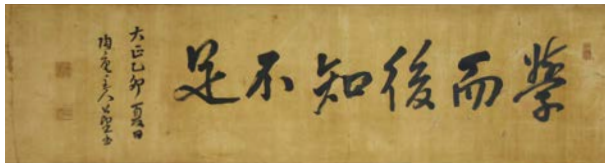
66 まなびてしかるのちにたらざるをしる 學而後知不足

所在地 鹿児島県立川内高等学校：薩摩川内市御陵下町

揮毫 大正4年 公望67歳

書は「學而後知不足」「大正乙卯夏日 陶庵主人公望書」とある。旧制川内中学校時代に寄贈されたと伝わる。立命館所蔵の「學然

後知不足」とは一字異なる。立命館の扁額(書)は同年の初春揮毫で、近い時期に一字違いの書が書かれている。



67 じゅさんみありしまたけしくんしょうとくひ 從三位有島武君頌德碑

所在地 鹿児島県薩摩川内市平佐町

揮毫 昭和9年6月(カ) 公望86歳

建立 昭和9年12月4日

碑は有島武出生地に建つ。有島は明治期の大蔵官僚、実業家。関税局長などを務めたのち、実業界に入り鉄道事業などに携わった。

有島には5男2女があったが、作家・有島武郎、画家・有島生馬(本名壬生馬)、作家・里見弴(本名山内英夫)は有島芸術三兄弟として知られる。

生馬の妻は西園寺公望の秘書であった原田熊雄の妹。また里見弴(山内英夫)は原田熊雄と交友があり、「原田日記」を校訂、『西園寺公と政局』の緒言を記し、刊行に与った。

碑は旧平佐村により、没後18年の命日に建立された。



66

67

あとがき—本資料作成の経緯—

1911（明治44）年12月10日、内閣総理大臣西園寺公望は「史蹟名勝天然紀念物保存協会」発会式において祝辞を述べた。

以下に、その祝辞を紹介する。

史蹟名勝天然紀念物保存協会設立発会式の祝辞

一坏ノ土言無クシテ往代ヲ語り一澗ノ水心有ツテ行人ヲ佇マシム曰ク史蹟曰ク名勝皆自カラ我邦ノ特色ヲ有ス況ヤ羽毛鱗介ニシテ宇内獨リ我ニ存スルモノアリ卉草木石ニシテ全球更ニ索メ得ザルモノアルヲヤ是等ヲ保全シ是等ヲ擁護スルハ即チ本邦固有ノ美トスル所ヲ撫存シ之ヲ後代ニ留貽スル所以ニシテ以テ性情ノ陶冶ニ供ス可ク以テ學術ノ資材ヲ豊カニス可シ其人文ニ寄與スル所蓋シ鮮カラザルナリ是ヲ以テ歐米ノ諸國ハ何レモ此點ニ著眼シ夙ニ其道ヲ講ジテ頗ル用意ノ周到ナルモノアリ我邦獨リ之ヲ忽諸ニ付ス可ケムヤ（以下略）

明治44年12月10日

侯爵 西園寺公望

史蹟名勝天然紀念物保存協会「史蹟名勝天然紀念物」第1号（大正3年9月20日）より

史蹟や名勝は我が国の特色を有するものであり、その固有の美を保存し後代に残すことは學術の資源を豊かにし、文化に寄与するものであるという。

西園寺公望の残した各地の扁額や石碑もまたそれぞれの歴史を語り、後世に残すべき記念物であろう。本冊子はその資料として作成した。

史資料センター紹介

『立命館創立五十年史』を嚆矢とする立命館史の編纂は、その後1991年から『立命館百年史』の編纂に受け継がれ、2013年2月、『立命館百年史』通史第三巻の発刊をもって、創立から2006年に至る全3巻の『百年史』が完成を迎えました。

この編纂過程で収集・保存された様々な史資料は、それぞれの時代の中での先人達の営為、そこで教え学んだ教員や学生達の姿を生き生きと伝える学園創造の歴史的記録です。立命館は、こうした史資料を改めて収集・保存し、現在・未来において有為な利活用を図ることを目的として、「立命館 史資料センター」を設置しています。

立命館の歴史に関係する文書、写真、各種資料に関する情報をお持ちの方、ご協力いただける方は、下記までご連絡ください。

学校法人立命館 立命館 史資料センター

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL.075-465-8209

<http://www.ritsumei.ac.jp/archives/>